

監修のことば

医療の目的は人の健康維持です。そして歯科医療の役割は、歯列をはじめとする顎口腔系の再建と保全による諸機能の維持です。維持される機能とは、咀嚼、嚥下、呼吸、発音、口腔感覚、姿勢維持、身体運動能力、そして審美も含めたもので、これらはいずれも日々の生活の質を左右し、心身の健康に、更には人生の満足度にまで影響を及ぼします（図1）。

この歯科医療の対象である顎口腔系は、筋と顎関節と咬合、そしてこれらを統御する中枢で構成されています（図2）。これらのうち、多くの歯科医師の方々から、「特に“顎関節”と“咬合”については、大学で教わった内容ではほとんど理解できていないため、実際の臨床でいつも不安がある」という率直な気持ちをうかがっていました。ちょうどそんなとき、デンタルダイヤモンド社から、顎関節と咬合治療の現場では大学教育で学んだものが全く不十分で、その対応に困っている多くの歯科医師のために、明確な基準をわかりやすく示してほしいとの連載の依頼を頂戴しました。

そのような歯科医師の声に応えるべく、2012年に月刊デンタルダイヤモンドにおいて、「顎関節と咬合に強くなろう——毎日の臨床が楽しくなる」という1年間12回連載の執筆をさせていただきました。臨床に不可欠な“顎関節”と“咬合”に関連する重要事項をできるだけわかりやすく示すようにこころがけ、読者の方々からお陰様でご支援のお手紙、お電話、メールをたくさん頂戴し、皆様から毎回本当に楽しみにしていただいたことに感謝いたしております。連載が終了してからも“連載12回分の別刷りがほしい”とのご要望を多数いただきましたが、その後ありがたいことにデンタルダイヤモンド社から大変な好評につき連載の内容に新たな知見を加えて1冊にまとめるという企画をいただき、本書ができました。

一般に咬合と顎関節は“難解である”というイメージが強くあります。しかし、歯科ではこの咬合治療を避けて通れませんし、咬合治療は“歯科だけができる治療”です。そして、顎口腔系の健康はもちろんのこと、全身の健康に大きくかわり、国民の生活の質を左右しますので大きなやりがいも、人としての生きがいに繋がります。本書で咬合治療を身近で楽しいものとしてくださり、明日からの臨床でぜひ実践し、活かしていただきたいと願っています。

2014年1月
小出 馨

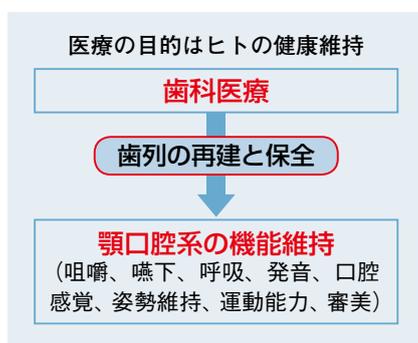


図1 歯科医療は日々の生活の質を左右し、心身の健康に、更には人生の満足度にまで影響を及ぼす

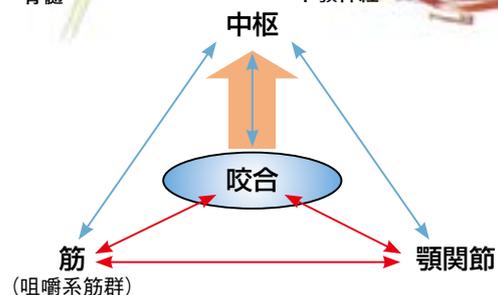
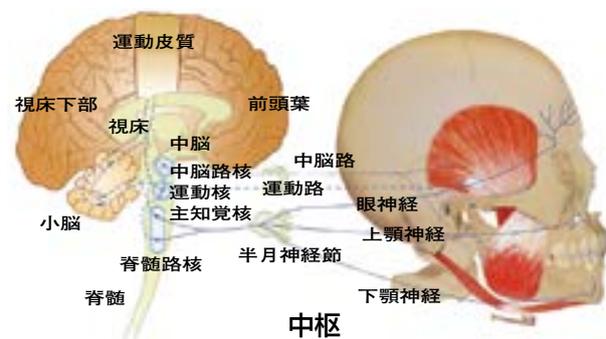


図2 顎口腔系は、筋と顎関節と咬合、そしてこれらを統御する中枢で構成される